

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	第4回 枚方市中学校部活動の在り方懇話会	
開催日時	令和6年2月27日（火）	10時00分から12時00分まで
開催場所	輝きプラザきらら 7階 たまゆらイベントホール	
出席者	小林 博隆 委員 萩原 雅也 委員 関 輝 委員 草部 正和 委員 牧村 剛 委員 渡邊 愛乃 委員 赤井 学 委員 花崎 知行 委員 田中 博 委員	
欠席者	南部 潔 委員 西村 英理 委員	
案 件 名	案件1. 視察報告について 案件2. アンケート結果について 案件3. 自由体験型 地域部活動（体験型）の試行実施について 案件4. 「ひらかたモデル」作成に向けて（周知方法について）	
提出された資料等の 名称	資料1. 視察報告について 資料2. アンケート集計結果 資料3. 令和6年1～3月の試行実施について 資料4. ひらかたモデル作成に向けて 資料5. 周知方法について	
会議の公開、非公開の 別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表	
傍聴者の数	—	
所管部署 (事務局)	学校教育部 教育指導課	
審 議 内 容		
<p>事務局</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから第4回枚方市中学校部活動の在り方懇話会を始めさせていただきます。皆様方におかれましては大変お忙しい中、本会議へのご出席、誠にありがとうございます。私、本日の進行を務めさせていただきます、教育指導課の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。枚方市教育委員会の事務局を紹介いたします。</p> <p>副教育長の岩谷 誠でございます。</p> <p>学校教育部長の 新保 喜和でございます。</p> <p>学校教育部次長の 河田 典子でございます。</p> <p>教育指導課長の井手内 太吾でございます。</p> <p>教育指指導課の 伊藤 良峰でございます。</p> <p>教育指導課係長の 垣上 祐哉でございます。</p>		

また、教職員課より 宮川 裕司が参加させていただいております。以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして座長の選任を行います。今回の座長は前回に引き続き、大阪体育大学の小林博隆准教授にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思っております。

(拍手)

それでは、本日の座長は小林委員にお願いします。それでは、以後の進行は小林座長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

小林委員

皆様おはようございます。それでは、ただ今より会議を始め、私が進行をしてみたいと思います。皆様どうかお力添えいただきますよう、よろしくお願いいたします。また、皆様には、案件について、それぞれのお立場から、活発なご意見をお願いしておきます。まず案件の前に、本会議の公開についてと、傍聴者への資料の配付について事務局から説明をお願いします。

事務局

枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程第3条に基づき、本会議は公開となっております。本審議会は公開とするとともに、会議録についても公表とし、発言された委員の氏名を公開することになります。また、配付資料については、傍聴者の閲覧に供するか、配付するよう努めることになっております。今回の会議は非公開情報が含まれていないと考えられます。本会議を公開とし、資料の取り扱いに関して、傍聴者に配布するという点でよろしいでしょうか。座長からご確認を取っていただきますようよろしくお願いいたします。

小林委員

ただ今、事務局からの説明がありましたが、第4回枚方市中学校部活動の在り方懇話会の資料の取り扱い、傍聴者に配付するという点でよろしいでしょうか。(意義なし)では、配付することで決定します。それでは、事務局から傍聴者の報告を求めます。事務局よろしくお願い致します。

事務局

本日の傍聴希望者はございません。

小林委員

ありがとうございます。では、案件に入ります。「案件Ⅰ 視察報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、事務局より案件Ⅰ視察報告についての説明をさせていただきます。【資料Ⅰ】視察報告についてをご覧ください。前回の懇話会の後、11月17日から18日にかけて東京都渋谷区、千葉県柏市において地域部活動の視察に行っていましたのでそのことについてご報告をさせていただきます。

まずは東京都渋谷区の現状からご報告します。渋谷区地域部活動の統括団体である「渋谷ユナ

イテッド」のサブマネージャー・渋谷区スポーツ部長・渋谷区スポーツ振興課主査・教育委員会指導主事からお話を伺いました。現状としては渋谷ユナイテッドという区から業務委託を受けた団体が様々な競技のクラブチームを統括運営しています。資料にございます写真は渋谷ユナイテッドのパンフレットです。土日の活動を基本としていますが、競技によっては平日も活動しています。現在中学校2校をモデル校として、今年度の秋ごろから平日・休日の学校部活動についても渋谷ユナイテッドが統括運営しており、大きなトラブルもなく運営できていると聞いています。また東京都の中学校体育連盟と協力して、試合にもユナイテッドからの派遣コーチが引率できるようになっているそうです。指導者についてはトップコーチが指導しており、指導に対する満足度は非常に高いと聞いています。指導者の採用については面談を大切にしているとのこと。地域の人材・企業をうまく活用しているとも聞いております。例えばダンス部の発表は代々木のバスケットボールチームの試合前に発表時間を設けることでモチベーションを高く保って活動しているそうです。平日の地域移行のモデル校には全運動部にコーチを渋谷ユナイテッドから派遣しており、各校にはスーパーバイザーとエリアマネージャーという事務作業を行うスタッフも派遣されています。マネージャーが出欠確認をし、メールシステムで管理しています。責任主体については休日の活動は渋谷ユナイテッドが、平日は学校がという風に住み分けをしているそうです。生徒同士のトラブルがあっても休日であれば渋谷ユナイテッドが対応し、そのための研修も行っているとのこと。生徒指導のレベルでの情報共有を目指しており、学校内にユナイテッドのスーパーバイザーの部屋を用意しているとのことでした。渋谷ユナイテッドの立ち上げ時の理事は前教育長で渋谷区の公立中学生は約1800人で半数近くが国立・私学に入学するということも参考に申し伝えておきます。ユナイテッドクラブには全公立中学校の生徒が参加可能で、平日は自校の部活動に参加し、土日は渋谷ユナイテッドのクラブに参加している生徒もいると聞いています。会費については競技ごとに異なり、支払いはカード決済と聞いております。翌日の18日午後は渋谷ユナイテッドのダンスクラブの視察に行っていました。指導者はユナイテッドコーチが3名、参加生徒は20名程度でした。生徒の管理やマネジメントは他社に渋谷ユナイテッドが委託しており、そのスタッフも1名おりました。生徒は上級者から初心者まで混在しており、3名の指導者できめ細かく見ている状況でした。

続いて柏市での視察内容についてご報告します。柏市教育委員会指導主事の方と千葉県から派遣されている統括コーディネーターの方が来てくださり、市内の2校の中学校を視察しました。柏市では現在、休日の運動部活動はすべてKSCAという地元企業に委ねており、そこから学校に指導者を派遣しています。学校教員が兼職兼業でコーチを務めることも多く、その場合はKSCAのコーチとして学校に派遣されているという扱いになります。現在休日に行っている部活動の吹奏楽と陸上競技部以外はすべてこの形に移行しているそうです。また、11月18日午後には実際に活動視察に行っていました。そこで兼職兼業でコーチを務める教員の方から、教員の半数は指導者登録を行っておらず、希望者のみが部活動の指導に関わっていると伺いました。また柏市は少年サッカー・少年野球が盛んで、元々そこでコーチをされていた方が、指導者登録をし、指導に当たっているケースも多いと聞いております。もちろん指導者登録をしていない先生は土日の活動には参加しません。それにより職員の月ごとの超過勤務時間も平均80時間程度だったものが、50時間程度まで減少したと聞いております。参加者についてはクラブチーム化してから元々土日の活動に参加しなくなかった生徒が来なくなったが、7割程度の生徒がそのまま土日の活動にも参加しているそうです。費用負担については参加料として月2,000円、年度更新料として5,000円を保護者負担としています。柏市の指導主事の方からは、試行実施から本格実施に移る際の、規模が大きくなる時の想定をしっかりとっておいた方が良いとお話を頂きました。柏市は1校で試行実施を行い、そこから全校実施としたのですが、1校だと上手くいったことが全校だと上手く

いかなかったということを知っています。また、柏市では元々男子バレーボール部はなかったのですが、この制度を作ってから土日のどちらかではありますが地域クラブとして新設されました。その指導者は統括団体から派遣されています。また、派遣されたコーチはセキュリティ上、校舎内に入れませんので柏市では校舎内に設置されていたAEDを校舎外に移転したと聞いており、本市においてもこれからの検討課題と考えております。

今回の視察を終えての課題整理として6点上げさせていただきます。①コーディネーターの役割の整理が必要である。②連絡システムを本格実施の半年前には構築して実装しなければならない。この連絡システムの構築については柏市の指導主事から非常に苦慮した聞いていることから上げさせていただいております。③委託業者には指導者の勤怠管理、生徒の出席管理、地域クラブのスケジュール管理、会費の集金、指導者の雇用・派遣・研修等を一手に担ってもらう必要がある。④事前の説明の徹底。校長会に加えて市民の方も含めた全体説明会が必要と考えております。⑤指導者謝金の積算の見直し⑥北河内中体連の各競技専門委員長と大会参加の規定について協議が必要である。これについては枚方市の専門委員の先生方とはお話をさせていただいているところです。

また、視察時に柏市の実証事業についてもお話を伺いました。柏市は、令和3年、令和4年と実証事業を行っており、1年目の令和3年は拠点校1校で4種目実施し、週休日及び祝日を原則として、週1回(3時間程度)の活動を行いました。対象は拠点校に在籍する生徒のうち、当該競技の活動を希望する生徒で、アンケート等により拠点校に所属する教員の在校等時間の変容、専門的指導による参加生徒の満足度等を調査したとのことでした。

本市におきましても、次ページ上部のロードマップに基づいて、令和6年度に①統括団体によるクラブ運営型と③-1自由体験型地域部活動(レア型)にて試行実施を行う予定としています。ページ下部には柏市のものも参考としまして、試行実施の案を掲載しています。案では事業者には①型と③-1型を運営してもらう形で、①型の統括団体によるクラブ運営型は、拠点校1校に3クラブを設置し、③-1型自由体験型地域部活動(レア型)は、公共施設にてダンスクラブを行うということとしております。各クラブとも統括団体による研修を受けた指導者が、2人ずつ派遣され、拠点校には責任者としてコーディネーターも設置する案となっております。また、調査内容として、柏市のものに加え、報酬と指導者数の関連についてや会費の徴収方法なども想定しています。

小林委員

ありがとうございました。ただいま事務局から視察報告についてが示されました。後半では、柏市の令和3年度の実証事業をベースとした枚方市の令和6年度の試行実施の案も示されました。多くの情報が今回提供されておりますので一度に全てのことについてご意見いただくのではなく、いくつかに分けて進めていきたいと思っております。また、今回のような調査が他に必要ではないかというご意見もあればお伺いしたいと思います。まずは渋谷区、柏市の視察報告について何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

田中委員

渋谷区、柏市のそれぞれの活動場所と、土日の活動での教員の関わりについてお聞きしたい。

事務局

活動場所については基本的には柏市は学校を基本としています。既存の学校部活動の土日の部分

を地域クラブ活動としてそのまま同じ活動場所でコーチは外部から来て指導するという形となっております。渋谷区の方は私どもが視察しましたダンス部は学校の体育館を使って活動しておりましたが、他のクラブ活動については、学校外で活動しているものも多かったです。

小林委員

ありがとうございます。私の方から一点確認させて頂きたいと思います。渋谷区について、各モデル校にスーパーバイザーとマネージャーを設置ということですが、これについては活動の時に常駐しているのか、場合によって、常駐はしないが担当者として位置づけられているのか、補足いただいてもよろしいでしょうか。

事務局

活動時に常駐しているのかというのは分かりませんが、クラブ付きの人材であると聞いております。スーパーバイザーというのはコーディネーター役で学校全体を統括する役割で、クラブマネージャーというのは事務的な役割を果たす方で、この方に関しては当日だけではなく普段から連絡調整に当たると聞いております。

牧村委員

柏市の事例で学校教員が兼職兼業でコーチをしていると記載がありますが、報償金はどれぐらいなんでしょうか。

事務局

時給 1,600 円で1日 3 時間と聞いております。

田中委員

兼職兼業ということですが、勤務中に地域クラブの事務的な仕事はしてはいけないと思うのですが、そういった事を防止する為に誓約書を書いてもらっているのでしょうか。

事務局

誓約書を書いてもらっているというお話は伺ってませんが、地域クラブの活動と学校での勤務は別のものだということは教育委員会としても周知していると聞いております。

関委員

課題整理の中に北河内中体連との話があるのですが、柏市もそうですが市全体の大会参加規程に基づいてどういう所属でどういう大会に参加していくのか、それを基にして一つの学校を視察に行ったのか、それは各種の中体連に所属してダンスならダンスでいろいろ、これからのことになるのか市の規定等に基づいて柏市の学校が動いているのか大きな仕様が示されているのか。後で北河内の中体連との連携についても示されていますのでお聞かせ願いたい。

事務局

試行実施の際には中体連との連携はそこまでされてなかったのではと考えていますが、大会参加に

については移行期間ということで学校部活動として参加していると聞いております。しかし今後については統括団体が大会を新設し、そこにクラブチームとして参加できるようにしたいと考えていると聞いております。中体連の大会に関してはまだこれから調整が必要と聞いております。

赤井委員

柏市の事例について。地域クラブ化してから土日に参加しない生徒が出てきて、参加率は部活に対して7割程度というお話でしたが、決して多くはないと思います。平日だけ部活動に参加して、土日には3割の生徒は参加していないということだと思のですが、その原因はどこにあるのかというお話はありましたか？

事務局

費用負担が発生していることが原因ではないと考えているとお伺いしました。費用負担についてはご理解いただけているし、土日の活動に参加しない生徒はそれが理由ではないとのこと。一定数は休日にはクラブをしたくない、他のことをしたいと考える生徒がおり、そういった層が参加していないと分析をされていました。

小林委員

おそらく運動部なのか文化部なのか、どういった部活動なのかによって休日にも参加するのかわからないのかという傾向もあると思います。また運動部であれば中学校を拠点にし、文化部であれば、中学校以外の施設を活用するという実践例も報告していただきました。渋谷区については競技によって費用負担は異なるということでしたが、具体にはどれくらいなのでしょう。わかる範囲で教えて頂けないでしょうか。

事務局

無料のものもあれば、半期で数千円程度のもの、2万円近いものまで様々でした。実際に関わる方への謝金であるとか、施設利用料、使用する道具等に応じた金額を費用負担としているようでした。

小林委員

渋谷区ならではのかもしれませんが、会費はカード決済ということですので、こういった部分は枚方市も検討していけるところかなと思います。それでは、視察報告については一度切らせてもらって、また遡ってご意見ありましたら頂戴したいと思います。視察を終えての課題整理ということで6点示されております。この点につきまして過不足等ございましたらご意見いただきたいと思います。先ほど関委員からは北河内中体連とのすり合わせが必要ではないかのご意見は頂いております。その他に気になる点がありましたらご意見いただければと思います。

田中委員

来年度以降に枚方市が業務委託できる業者に見込みはあるのでしょうか。

事務局

具体的に決まっているわけではありませんが、調査をしている中で候補として上がっている業者はご

ざいます。その中の1つに決まっていくのではないかと考えています。

田中委員

見込みはあるということでしょうか？

事務局

調査している中で、このスキームで実施可能であると回答いただいている業者もございます。

牧村委員

委託の部分なんですけど、いくつかの競技ができるような委託先なのか、柏市のように一般社団法人を新たに立ち上げて大きく業務内容を委託してしまうのかどちらなのでしょう。

事務局

それはまだ先の議論かなと考えております。まずは実証事業として、枚方にとって地域部活動はどんな形が良いだろうかということを検証した上で、それを持続可能にするためにどうすれば良いかという議論をしていくことになると思います。ですので先ほど仰っていただいたことは将来、検討することになるだろうと考えています。

花崎委員

以前の会議の中では指導者の確保が大きな課題であると仰っていたと思うのですが、今回の課題整理にそこが含まれていないというのはその点については見通しを持たたという認識でよろしいでしょうか。

事務局

引き続いての課題であると考えておりますが、視察においては柏市・渋谷区ともに指導者はいるということでした。もちろん枚方市においては指導者の質・量の確保はひらかたモデルを考えていく上で重要なテーマであると考えています。

赤井委員

統括団体におけるクラブ運営型の試行なんですけど、一つの学校で試行するというのでしょうか？複数校で試行するのでしょうか？それと指導者 2 名となっていると思うのですが、一名が教員、一名が指導者という捉え方でしょうか。それとも 2 名とも外部の指導者ということでしょうか。

事務局

今回は一つの学校で 3 クラブ選定して試行実施としております。指導者につきましては、教職員の兼職兼業の扱いがまだはっきり決まっておきませんので今年度の試行実施に関しましては 2 名とも外部指導者です。兼職兼業の設計が整ってくれば、希望すれば教員がこの指導者になることができるようになってくると考えています。

田中委員

枚方は土日休日から試行実施ということでしたが、各学校に指導者が派遣されるということで、他校から生徒が集まって実施するということはないということでしょうか。

事務局

令和 6 年度に関しましては 1 校でその学校の生徒のみというように考えております。その後に関しては試行実施の結果も受けて、ご意見を伺いながら進めていきたいと思っております。

田中委員

部活動指導員という制度がありますが、この大会引率もできる部活動指導員制度を枚方市は活用していないですが、今後はどのようにお考えでしょうか。

事務局

令和 6 年度につきましては部活動指導員も活用していく方向で進めております。

赤井委員

コーディネーター配置が大切かなと思っておりますが、視察を終えての課題整理にも一番に挙げられていました。コーディネーターの役割というのはこういったものをお考えおられるのでしょうか。

事務局

管理責任ということで事故対応が最も大きいと考えております。クラブの指導者だけが対応するのではなく、コーディネーターを中心に連携して危機対応することが必要と考えております。また、当日の出席確認等の事務作業等も含め、試行実施の 3 つのクラブの活動に関してはコーディネーターが責任をもって管理すると考えております。

小林委員

その他は如何でしょうか。令和 5 年度から 7 年度までのロードマップも示されております。

牧村委員

9 月から実施予定とロードマップには書かれていますが、該当校の保護者への説明会には教育委員会事務局も出席されるのでしょうか

事務局

もちろん事務局も出席させていただいて、委託団体とともに説明させていただきます。

牧村委員

その時に良い意見も出れば、悪い意見も出るでしょう。強硬手段に出たと言われる保護者も出てくると思います。そういった意見が出た際の対策も考えておいた方が良いでしょう。

事務局

丁寧な説明を心がけたいと思っております。

小林委員

今回の視察報告では費用について具体的に提示いただきました。柏市は、月2000円、年間更新料が5000円とありました。渋谷区は競技によって異なりますが、保護者負担となっている競技も多いようです。全国的にも一部の自治体を除き、持続可能にしていくには、費用負担が発生するところが多いようです。前回の懇話会で行政としての負担額の割合などがわからないと議論が難しいというご意見もありました。保護者負担を求めるならば、この地域連携や地域移行の内容をどのように具体的に周知をして、理解を得るかという問題もあります。今後の資料で必要経費の試算や、周知方法についても示されるようです。そのようなことも踏まえまして、その際にご意見をもらえればと思います。資料1についてはここで一度切りたいと思いますが、他にご意見等ございましたでしょうか。

それでは、「案件2 中学部活動に係るアンケート結果に移ります。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、事務局より案件2中学部活動に係るアンケート結果の説明をさせていただきます。【資料2】アンケート結果についてをご覧ください。アンケートの集計結果を総括しましたところ、大枠としましては、児童、生徒共に、家の近くで、知っている教員など自分の身近にいる人や技術を持った人に教えてもらいたいと思っているという傾向が出ました。また、他校の生徒と一緒に活動することに関しては、多くの児童生徒が肯定的な回答をしています。以下、結果について詳しく説明させていただきます。

まずは中学校 1 年生から 3 年生までのアンケート結果について説明します。回答者は5466 人、回答率は55%でした。部活動に入っている目的に関する質問では「友達と楽しく活動するため」という回答が多かったです。指導者に何を期待するかという質問では「体力・技術の向上」「部活動をもっと好きになる」「専門的な技術指導が受けられる」という項目の回答が多かったです。やはり専門的な技術指導は一定のニーズがあるということがここから読み取れます。また、休日の部活動がなくなったら何をしたいかという質問がございますが、こちらに関しましては、生徒が休日の部活動が休みになったらと捉えた可能性があり、次回のアンケートの際には文言を調整したいと考えております。別の学校の生徒と活動することについてどう思うかについては、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしております。地域クラブ活動に参加したいかという質問では「家の近くなら参加したい」という回答が最も多かったです。この質問で参加しても良いと答えた 2802 人が以下の質問に答えております。地域クラブ活動ではどのような活動がしたいかという質問では「平日の部活動と同様のもの」が最多回答でしたが「異なる競技を行いたい」というニーズも一定ございました。どのような指導者が望ましいかについては「中学校で部活動を指導している先生」が一番、続いて「専門的な技能・知識を持った指導者」となっております。どれぐらいのレベルの活動を望むかについては「大会で勝つことを目指す」と「わいわい楽しみたい」がほぼ同数でした。休日であれば活動してみたいクラブはという質問では多くが既存の部活動に存在する競技ですが、第 5 位にはダンスが入っております。

ここからは小学校 5 年生と 6 年生を対象とした児童アンケートの説明です。4196 人が回答しており、62%の回答率です。休日であれば参加してみたいクラブはという質問では多くが既存の部活動の競技でしたが、学校部活動にないものの中ではダンスが最も回答が多かったです。別の学校の人と活動することはどう思うかについては肯定的な回答が多かったです。地域のクラブ活動に参加したいかという質問では中学生と同様に「家の近くなら参加したい」という回答が多いです。指導者についても

「中学校で部活動を指導している先生」、「専門的な技能・知識を持った指導者」が多く、中学校と同様の結果となりました。

小林委員

ただいま事務局から案件についての説明がありました。11月に実施したアンケートの結果が示されました。このことも踏まえ、今後の部活動の在り方について、ご意見をお願いいたします。

児童生徒ともに家の近くで参加したい、教員など身近にいる人や技術を持った人に教えてもらいたい、他校の生徒と活動することに対しては概ね肯定的であるという傾向が見て取れます。ただ、活動するとなると身近というのは重要な要素になってくると思います。また文化部か運動部かによって子どもの捉え方は違っただろうと思います。文化部であればわいわい楽しみたいという割合が多くなるでしょうし、運動部であれば競技性を高めていきたいという思いが回答から読み取れたかと思います。改めて資料に目を通して頂いて、ご意見いただきたいと思います。

関委員

アンケート結果を見ると子どもたちの考え方は大きく 2 種類いるなどと思います。地域移行に対してダンスのように個人競技で、今までの部活動にないものが経験できるという好奇心を持っているものと、専門的な指導の下で大会に勝ちたいと考える競技志向のものがいると思います。地域移行は遊びのクラブを作るわけじゃないということを明確に先に示しておかないと、学校になかったものができるからあれもこれもやりたい、という生徒が出てくると思います。

田中委員

令和 6 年度に試行実施されるものは令和 7 年度以降も見通した試行実施だと思うのですが、9 月からは学校の中での部活動に委託業者の指導者がくる、つまり学校が主な活動場所で土日については教員ではなく委託業者が担うということになってます。それ以外のダンスであるとか学校にないクラブに関しては、実施場所に複数校から生徒たちが集って実施する。中学校長として質問されることが多いのが、土日に習い事のように学校ではない場所に行くのか、学校のクラブはそのままあって、外部委託が入ってきて母体は変わらないのか、どちらを目指しているのかという質問が教員も保護者も多いです。このモデルだと学校の部活動は維持するという前提ですか。

小林委員

ご意見ありがとうございます。アンケート結果と照らし合わせると視察報告で提示されたロードマップに戻る必要があると私も感じておりました。ロードマップや今後の試行実施のモデルについて、アンケート結果を踏まえた事務局の見解がございましたら説明をお願いします。

事務局

①の統括団体によるクラブ運営型は、まずは土日からということではありますが学校から切り離れた運営となります。②型の学校部活動・地域部活動組み合わせ型に関しては、部活動指導員を任用しますので学校部活動としての活動となります。しかし、学校教員のみでは部活動を維持できなくなっていくことが考えておりますので、②型については持続可能性が低いと考えております。将来的には学校から切り離された地域クラブに、様々な学校から生徒たちが集まり参加する形態となるのではと考えており

ますが、地域移行を進めていく中での過程において他校からの参加等々をどのように緩和していくのは皆さんの意見を頂きながら調整していきたいと思います。まずは試行実施をしていく中で子どもたちの体験機会の確保にどれくらい有効なのか検証したいと考えています。

田中委員

個人的には①型の統括団体によるクラブ運営型を学校単位の活動を残しながら進めていき、将来的には休日に指導してくれている統括団体の指導者が平日の部活動も指導してくれるようになるのが、一番先生方の負担軽減になると思いますし、地域移行と呼べる状態だと思います。③-1自由体験型地域部活動(レア型)のように学校にない、中体連も関係しないものを土日に作るのも結構ですが、学校の混乱が少ないという意味では全校の全クラブで①型を目指してほしいと思います。色々な考え・意見があることも承知しておりますのであくまで個人的にお伝えしておくに留めたいと思います。

赤井委員

以前から懸念しておりましたが、例えば試行実施の③-1自由体験型地域部活動(レア型)で土曜日にダンスクラブの活動に参加し、平日に陸上部に所属しているという場合だと、陸上部の大会が土曜日にあつたら、その生徒は陸上部の大会には参加できないということになるのでしょうか。試行実施ですので、そこも検証していただきたいと思います。

小林委員

今の例のような陸上部・ダンスクラブの組み合わせに限らず、平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動で違うクラブに所属しており、土日に学校部活動の大会があるという事態は当然起こり得るでしょう。その場合の優先順位について事務局から回答はございますか。

事務局

基本的には個人の選択に委ねることになると考えています。ダンスを優先したいのか、陸上の大会を優先したいのか本人の選択を尊重することになると思います。

草部委員

アンケートについて質問があります。「休日にあれば活動してみたいクラブは？」という質問の調査結果が示されていますが、ここに挙がっている競技は元々質問用紙に示されていていくつ選択しても良いという聞き方だったのででしょうか。

事務局

選択肢に関して説明いたします。以前に取った保護者・教職員向けアンケートに指導できる種目は何かという項目がありました。そこに挙げられていた種目に加え既存の部活動を選択肢として提示し、生徒はそこから複数選ぶことができました。

渡邊委員

児童生徒アンケートで先生に指導してもらいたいという子どもと、専門的な指導を受けたいという子どもが同じぐらいだなという印象を持ちました。9月から実施予定の①型の統括団体によるクラブ運営

型を実施されるときに、おそらく安心感を求めて先生に指導してほしいと思っている子どもたちへのフォローは何かお考えでしょうか。例えば試行段階では先生方がある程度見守るような形態を考えているのか、それとも完全に教員は関わらず、統括団体に任せてしまって生徒の受け止め方はアンケート調査するつもりなのか教えていただきたいと思います。

柏市では休日には参加しない生徒が3割ぐらいいるとお示しされていましたが、そうなると能力に差が出てしまった場合はどういうフォローをしていくのでしょうか。それも含めて子どもの選択だとは思いますが、試合に出て活躍したいという子は同一競技を選ぶのでしょうか。興味があっているんなクラブを試してみたいけど、大会にも出たいという子どもたちはどういう機会が与えられるのかイメージがあれば教えていただきたい。

事務局

先生に指導してもらいたいという層もいることも理解していますが、来年度の試行実施については専門的な技術・知識を持った方に指導に当たって頂きたいと考えております。ただ、兼職兼業の制度が整えば先生方の中にも指導者をされる方が一定数おられるだろうと考えております。

休日に参加しない生徒へのフォローについては、平日・休日を切り分けずに、平日はどのような練習をすれば良いのか指導者にアドバイスをもらうことや、休日にも参加している友達にどのような活動をしたのか聞いて平日の活動に生かすということが考えられ、他市ではそういった対応を行っている所もあると聞いております。

小林委員

教員が関わるにせよ、外部指導者に任せるにせよ、平日・休日と継続して参加する生徒にしてみると指導者が変わっても活動方針が共通していないと混乱をきたすでしょう。これは運動部・文化部共に共通の課題だと思います。また、参加の有無についても、個人種目であれば個人の意思決定に任せても良いと思いますが、団体競技であれば、休日来ていないのになぜレギュラーなのか、なぜ試合に出れるのかというような不満が出ることも考えられますので、活動方針というのは指導者・生徒・保護者としてしっかり確認した上で活動していかなければいけないだろうと思います。また、柏市の例では競技性の高い種目については休日も参加する生徒が多いと報告がありました。この辺りも運動部と文化部の違いが出てくるだろうと思います。

それでは、案件2 中学部活動に係るアンケート結果についてはここまでとし、続いて案件3 自由体験型 地域部活動(体験型)の試行実施について、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、事務局より案件3 自由体験型 地域部活動(体験型)の試行実施について説明をさせていただきます。【資料3】令和6年1~3月の試行実施についてをご覧ください。現在、関西外国語大学、摂南大学、大阪工業大学と連携して、自由体験型 地域部活動(体験型)の試行実施を行っております。3大学で各クラブの活動が1回ないし2回終了し、残りは3月2日と3月16日の活動となっております。このことについての途中経過と現在上がっている課題、そして来年度の実施案についてお話しさせていただきます。

今回の試行実施については、保険料は市が負担し、責任の所在も市が主体となっておりますが、今後については大学側とも調整を続けてまいります。本試行実施で検証すべき課題はひらかたモデル 7

つの課題のうち次の4つと考えております。①指導者の質・量の確保として大学生の指導者としての可能性の検証②スポーツ施設の確保方策として大学を活動場所として利用可能なのか検証③保険の在り方として保険の適応範囲の妥当性④保護者地域への周知方法としてチラシ等で周知を行ったことが効果的であったのか等が挙げられます。現在の試行実施の申し込み者は延べ83名で、スケジュールの都合上、生徒への周知が直前になったことや、2月17日の試行実施が定期テストの直前であったこと、3年生は受験のためほとんど参加できなかったなどの理由もありまして、申し込み人数が伸び悩みました。しかし参加者の満足度は非常に高かったため、それも合わせて報告させていただきます。活動後のアンケートでは肯定回答が100%で強肯定も75%でした。理由としては「他校の生徒は大学生と一緒にできて楽しかった。」「普段、あまり外に出ないけど、このような機会があってよかった。」「専門的な知識や徐々に難しくなっていく課題が勉強になった。」「普段触れることのないジャグリングが体験できてわくわくした」「自分がやりたかった農業の体験ができたから楽しかった」という意見がありました。普段体験できないが、やりたかった・興味があったことができたということが満足度につながったと考えております。参加した理由については「活動自体に興味があったから」が62.5%で、次に大学生と一緒に活動してみたかったが18.8%でした。活動を知った理由は「学校で配布されたチラシ」が50%、次に学校のブログが25%でした。また参加したいかについては肯定的な回答が100%でした。その中には「大学の雰囲気や教え方の工夫が興味深かった」「いろいろなことをやってみたい。体験しないとわからないこともあるから」という意見がありました。保険料800円の自己負担があっても参加したいかという設問では「分からない」という回答が多くを占めておりました。ただ、一緒に来ておられた保護者の方にお話を伺うと、一回だけの体験なら高いと感じるが、一年通して活動があるなら高いとは思わないとご意見を頂いております。会場への移動手段については保護者に送迎してもらっての車・バイクが合わせて62.6%で、自転車だけが12.5%でした。その他、活動後の感想を一部紹介します。「丁寧に教えてもらってだんだんできるようになってよかった」「初対面が苦手なので不安だったけど、大学生の人たちが積極的に話しかけてきてくれて何とか会話ができたのが印象に残っている」「はじめ緊張したけど大学生が優しく、すぐに楽しくなった。」「来てよかった心から思えるものだった。」「達成感のほかに様々な思い出ができてよかった。」などの感想を頂きました。どの生徒も最初は緊張してたが、終わった後は楽しかったという部分が共通しておりました。一方で見えてきた課題もありますので来年度の実施につなげていきたいと思っております。大学生の指導者としての可能性については、大学生はみなフレンドリーで積極的に中学生に話かけており、このことが最初は緊張していたが終わった後は楽しかったという感想につながっているのだと思います。これは中学生と大学生という距離感だからできることで大人の指導者には中々できないのではないかなと思っております。しかし、中学生にとっては最初のステップが予想以上にハードルが高いということを今回感じましたので、次年度実施するに当たっては大学生にPR動画を作成してもらって、中学生が参加しやすい雰囲気を伝えていけたら良いと考えております。また、大学生向けの研修については今年度も行いましたが、来年度は懇話会委員でもある小林委員に依頼をしております。次にスポーツ・文化施設の確保方策については、アンケート結果から生徒は自分の家の近くで活動したいというニーズが強いということが分かりました。このことから大学と調整するのは中学校に大学生が出張して活動するという形態も考えております。続いて周知方法についてですが、今回は全生徒へのタブレットでの電子媒体も含めたチラシの配布、各教室へのポスター掲示、教員からの働きかけ、市教委ブログでの発信、GIGAフェスでのチラシ配布、市SNSでの発信を行いました。当初は申込数が伸び悩んだのですが、市のSNSで発信した際は申し込みが増えました。このことから生徒と同時に、保護者にも見ていただき、大学という普段関りのない場所での活動に後押ししてもらうことも重

要かと考えております。

その他、日程について、今回の試行実施は土曜日の午前中に設定しましたが、多くの運動部が土曜日に活動しておりますので参加しにくい要因になったと分析しております。活動内容については体験でするので1回で完結する内容としましたが、生徒のニーズとしてはある程度の技術の向上を求めているのではないかとということで、一定の回数の参加をすることで技術的な向上も目指す形で来年度は考えております。

令和6年度も令和5年度と同様に3大学での実施を予定しており、実際に指導していただく学生には研修を行った上で、各クラブ10~12回程度の活動を行います。活動は大学生がマネジメントしており、今回の試行実施においてもすべて大学生が考えた内容で実施されました。内容は事前にある程度聞いてはいましたが、実際見てみるとしっかり考えてくれていて、中学生も満足度が高いのも頷ける内容でした。会場については各大学及び、市内中学校も視野に入れているところです。令和6年度はある程度の技術の向上を考えて、3回1セットで考え、それを何セットか行うと考えております。周知に関しては広報ひらかたや市SNS等、大学生によるPR動画を活用することと、さらに今年度の参加者のインタビュー動画を用意しておりますので自分と同じ中学生が参加しているということが伝われば良いと考えております。

また、中学生を対象として実施しましたが、対象を小学校5年生からとすることと、保護者と一緒に体験できるようなプログラムを作成することを考えております。今回、大学生も参加した保護者の方に「一緒にやりませんか」と声をかける姿も見られ、参加はしませんでした。保護者参加も形態の一つとして考えております。また事務局と大学とで覚書を交わし、責任の所在等を持続可能な形に向けて煮詰めていきたいと考えております。令和6年度は今回の試行実施を検証した上で、6月ごろから実施したいと考えています。

小林委員

ただいま事務局から自由体験型 地域部活動(体験型)の試行実施について説明がありました。試行実施での課題を踏まえて、令和6年度どのように本格実施していくかの案もありました。これらのことについて、何かご意見・ご質問等ございましたでしょうか。

花崎委員

2点質問がございます。1点目に、自由体験型は小学生5・6年生も募集するということでしたが、それは自由体験型に限ったことなのか、他の型でも土日に活動する場合は同様に小学生も対象として募集するつもりなのかお聞かせ願いたいです。2点目に自由体験型を来年度、試行実施するに当たって先ほどのアンケート調査の結果を踏まえた上で新たな実施内容を検討されるのかをお伺いします。

事務局

最初の質問に関しては小学校5・6年生を対象とするのは自由体験型のみと考えており、部活動の地域移行は子どもたちの多様な体験機会の確保をねらいとしているというメッセージを込めております。①型と②型については学校部活動の代替と考えておりますので小学生の参加は考えておりません。

アンケート結果を踏まえて新たな実施内容を検討するのかという質問ですが、アンケートでは参加生徒は家の近くが好ましいと考えていることが分かりましたので、大学生を中学校に派遣するという新たな形も来年度検討してまいりたいと思います。

萩原委員

ひらかたモデルの作成も、それ以降についても地域の立場から見て、地域にどのような影響を与えるのかという視点を持つことが必要だと思います。今回の試行実施のケースだと大学生にとってはPBL (ProjectBasedLearning 課題解決型探究学習) になっており、様々なプロジェクトに参加し、そこで学ぶことは大学生にとって大きなメリットがある。だから積極的に参加しますし、今後拡大することも考えられます。今後の地域移行を進めていくときに地域が主体的であるかどうか、地域全体にとってどのようなメリットがあるかを考えないと持続性がありません。課題は指導者も含めた地域の人たちや場所の地域資源の活性化です。それらを活用することで地域側にメリットがないと積極的にはならないでしょう。Win-Win の関係になることが必要なのではないかと思います。もう一点課題があります。視察に行っておられた地域もそうでしたが、大きな団体に投げる方が全体を統括する上では楽だと思うのですが、そうしますと地域の資源発掘や地域に資本を作るという面では非常に効果が弱いです。手間や軋轢はあるが地域の団体・個人と結びつきながら活性化していき、できるだけ地域の人材・場所を活用したい。最終的にそれが地域と学校との関係性につながります。地域と学校の相互の信頼ができれば部活の連続性につながる大きな資本になります。できるだけ地域を利用しながら進めていきたいと考えたとき、枚方市の貴重な資源である大学を活用しているのは素晴らしいことですので、大学以外の資源も活用できれば良いと思います。

小林委員

貴重なご意見ありがとうございます。地域の中にある学校が地域をどれだけ活性化できるかというのは重要な視点だと思います。今回は大学でしたが、枚方市内の企業も資源の一つですので、企業にどれだけ関わって頂けるのかというのも課題でしょう。また、今回の試行実施のアンケートについては現在予定しているプログラムがすべて終わった際に、大学生にもアンケートを取ってもらい、彼ら自身の感じるメリットや課題も調査していただきたいと思います。次年度においては先を見据えて小学生も参加できるプログラムも用意するというのですが、小学生の興味を引く周知と同時に保護者への周知も大切だと思います。私自身も子どもがいますが、市が開催するイベントに参加する際は、親が知ってそれを子どもに説明して、そこで興味を示せば実際に行ってみるようになります。また、私自身大学に勤めていますが大学生を休日に集めるのは難しいと感じます。大学の長期休みは小中学校も長期休みですので、毎週土日ではなく長期休みを利用して平日の連続した日程にするなどの日程についても、今年度のすべてのプログラムが終わった時に大学に選択してもらえれば主体的な学びになるのではないかと思います。

他に委員の皆様からご意見ございませんか。

小林委員

それでは、続けて案件4 ひらかたモデル作成に向けてです。事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、事務局より案件4ひらかたモデルの作成に向けて説明をさせていただきます。以前からひらかたモデル策定のための課題を7つ挙げさせていただいています。来年度中のモデルの策定をめざす

にあたり、7つの課題についても検討が必要です。そのため、今回は、会費の在り方、周知方法についてもご意見を伺えればと存じます。これまでの流れや来年度のスケジュール感なども併せてご提示しますので、どうぞ、宜しくお願いいたします。

資料④を基に説明してまいります。4 ページにおいて、①統括団体によるクラブ運営型、②学校部活動・地域部活動組み合わせ型の以降のステップとして 3 段階あると考え、内容を示させていただいております。ステップ1として各種目の専門委員等と協議し「① 統括団体によるクラブ運営型」「②学校部活動・地域部活動組み合わせ型」をめざすかを決定する。ステップ2として統括団体への委託仕様書に人材募集の要項を書き込み、市教委としては部活動指導員の人材募集を行います。ステップ3は①型、②型共に本格的に実施していくと考えております

また、①から③-2 型までのそれぞれの型における活動時間・場所等をまとめた資料が 6～10 ページにございます。11 ページには②型として今後平日の受け皿も用意して移行していきたいということでお示しております。12 ページはすべての型の活動場所・指導者・費用負担を一覧にまとめております。13 ページには年間総事業費と生徒一人当たりの費用の試算をお示しております。第三回の懇話会でお示した物とは積算の根拠を変えております。以前は①型の統括団体によるクラブ運営型の試算には部活動に参加しているすべての人数で総事業費を割ったのですが、柏市では土日の参加人数は部活動に所属している人数に対し、7 割程度の数の参加ということでしたので、現在部活動に所属している生徒の 7 割の人数で費用を割っております。

指導者謝金を時給 4000 円として試算しますと、年 68,577 円と年間保険料 800 円が参加生徒一人の費用負担になります。謝金の時給 4000 円というはあまり現実的ではありませんが、参考として示させていただいております。

指導者謝金を時給3000 円として試算しますと、年52,119円と年間保険料 800 円、指導者謝金を時給 1600 円として試算しますと、年 29,076 円と年間保険料 800 円が費用負担となります。

②型の学校部活動・地域部活動組み合わせ型では部活動指導員を 1 クラブに対し、1 人雇うのであれば費用は生徒一人当たり 30,717 円、2 人雇うのであれば費用は生徒一人当たり 61,435 円と試算しております。こちらは学校部活動の所属生徒の総人数で総事業費を割ったものでございます。また自由体験型地域活動の③-1 と③-2 のレア型・体験型においても費用の試算をしてお示しております。

続いて 14 ページは令和 6 年度の年間スケジュールで、15～16 ページにその詳細を示しております。現在は枚方市中学校体育連盟の専門委員に意見を伺っている所です。3～4 月には自由体験型地域部活動(体験型)の検証を行い、大学側と覚書を交わしたいと考えております。試行実施に係る契約や指導員の募集、議会への案件提出、懇話会の開催予定についても記載しております。来年度の懇話会は 5 回の実施を予定しております。来年度中の「ひらかたモデル」の策定を目指して、ますます皆様にもご意見を頂きたいと考えております。

続いて周知方法について説明いたします。先ほどからご意見いただいておりますが、この枚方市の意向をどのように子どもたち・保護者の皆様・学校の先生方等、様々な方面に知って頂くかということは大

きな課題と考えております。③-2 型の参加状況とも連動してくると思います。資料⑤の2ページ目において、今年度主に周知した方法をまとめてあります。皆様にもご意見いただきながら作成したチラシを付けてアンケートを実施しました。懇話会の議事録の HP での公開、議会での報告、枚方市教育委員会からの方針を伝える校長会や、今後の施策の説明等を行う校長連絡会にて周知しております。中学校体育連盟の専門委員の先生に個別訪問しての説明も行っております。

3 ページには令和 6 年度に考えている周知方法をまとめています。保護者・教職員・児童生徒アンケート、枚方市中学校部活動の在り方懇話会の公開、議会への報告、ひらかたモデルの説明会、随時活動の様子をブログ、フェイスブックなどで周知、ポータルサイトを成するという案も考えております。現在も教育委員会のブログにおいて大学生の活動の様子も随時発信しております。

こういった事を通して、本市の目指す方向性を積極的に発信して皆様の理解を得られた上で進めていけたらと考えております。

小林委員

ありがとうございました。ただいま事務局からひらかたモデルの作成に向けてが示されました。柏市・渋谷区への視察から、費用について前回と違う試算もありました。また、地域移行の取り組みについて先ほども申し上げましたが、保護者負担を求めるならば、この地域連携や地域移行の内容をどのように具体的に周知をして、理解を得るかという問題もあります。また、この必要経費のこと、また理解を得るための周知の方法について、様々な立場からご意見をいただければと思います。

会議時間が残り 15 分程度となっております。残された時間は限られておりますが、様々なご意見を頂ければと思います。委員の皆様方ご意見はございますでしょうか。

草部委員

全体を見てると児童生徒アンケートからも何となく子どもたちの求める方向性は見えてきたのではないかと感じています。その中で、どの案件にも指導者の質、活動場所が課題として出てきますが、ある程度試行実施を続ければ子どもたちの気持ち・考え方も変わると思いますし、場所についてはスポーツ推進審議会でも場所が無いことが課題となっております。そういった事も鑑みて試行実施をする中で方向性を定めてほしいと思います。

田中委員

3点ございます。1点目は周知方法について、中学校は保護者に説明が求められることも多いのですが、今年度も校長連絡会で周知していただいたのですが、もう少し細かい質疑応答をさせてもらう時間を含めて来年度は年度当初から数回にわたって時間を頂けるとありがたいです。

2点目にモデル作成に向けて、責任の所在についてです。休日の活動については生徒のトラブルも休日で指導する。大学での活動等も学校は関与しないということをしかり押さえていただきたい。学校の方に保護者が訴えてきた際にも調整に來れるような体制を取って頂きたいと思ひます。また、ボランティア

アでやってくれている大学生が責任を負わないように守れる契約を交わして頂きたいと思います。

3点目に統括団体によるクラブ運営型においては、休日の地域クラブとして活動しているのですから部活動での大会参加等に影響しないように押さえておく必要があると思います。特に兼職兼業で顧問の先生が平日・休日共に指導したとき、休日参加していない生徒を区別したり、休日の活動で試合に関する指導や練習をしたりして、平日のみの参加ではその内容の指導を受けることができないということがないように方向性を定めていただきたいと思います。

事務局

事務局でも検討課題と認識しております。特に、大学生に責任を取らせないということに関しては大学と協議しているところです。

田中委員

合わせて、実際にいじめやケンカ等のトラブルが起こった際の責任の所在や指導は学校ではないということを押さえておいてください

小林委員

今年度の懇話会は今回を最後としておりますが、令和6年度も5回の開催を予定しております。委員の交代等があるかもしれませんが、引き続きこの懇話会は継続していきます。担当者が変わった際は引き継ぎをお願いします。また事務局の方にも改めて気になった点については問い合わせいただければと思います。また周知するに当たってはQ&Aが重要だと思いますので具体的な質問・懸念事項を挙げていただきますと事務局や説明させれる方にとっても安心して伝えることができると思いますのであらゆる角度から、またあらゆる立場から、検討してほしいという内容はぜひ事務局に寄せてほしいと思います。この場で何か発言される方おられますか。

田中委員

6年度の9月からの試行実施の内容を提示していただいておりますが、7年度以降は形態が変わっていくのか教えていただきたい。

事務局

現時点では6年度のみ形態と考えています。その後、同一の学校で試行実施を続けるのか、対象校を拡充するのか等は来年度の経過を見ながら検討してまいります。

赤井委員

資料④の4ページにおいて、ステップが3段階あり、ステップ1として各種目で「①統括団体によるクラブ運営型」「②学校部活動・地域部活動組み合わせ型」をめざすかを検討するということでしたが、

各学校でそれぞれのクラブが決めるのではなくて、種目の部活動ごとに①型か②型を選択するということですよ。①型というのは外部の統括団体によるクラブ運営で、②型は委員会の事務局付の活動という捉えてよろしいでしょうか。

事務局

①の型についてはおっしゃる通り統括団体による外部のクラブ活動です。②の型については部活動指導員を派遣するというもので教育委員会において会計年度任用職員として任用した指導員を学校職員として派遣するものです。なぜこれを競技ごとに決めるのかというと①の型は柏市の例を見ても費用負担が発生する可能性があります。例えば同じサッカー部でも、ある学校は費用負担あり、ある学校は費用負担なしというのは参加者からしても不公平感があるのではないかとということで、学校ごとではなく競技ごとに移行していくと考えております。専門委員の先生方に意見を聴取し、校長先生方とも調整した上で最終的に来年度、どの競技で試行実施を行うのか決定したいと思います

牧村委員

本格的な実施時期とその周知時期について、部活動が外部のクラブ活動になると4月5月に説明されたら、部活動を理由に越境して校区外の中学校に通っている家庭は納得できないでしょう。来年度以降、周知についてはその時期を考えてほしいと思います。

事務局

ご指摘いただいた通り、周知時期についても慎重に決定したいと思います。また、部活動の地域移行が平日にも及んできた場合は、現在行っている校区の弾力的運用の制度についても議論していく必要もあると考えております。

小林委員

他にはよろしいでしょうか。それではこれで案件はすべて終了しましたが、事務局から何かございますか。

事務局

来年度の懇話会ですが、5月・7月・9月・11月・2月の5回開催予定でございます。また、必要があれば、別途臨時会として、開催させていただく可能性もございます。

なお、本日の案件に対するご意見についてですが、限られた時間の中で、多くの資料をご覧いただきましたので、会議終了後になって更にご意見や、疑問等が生じる場合もあるかと存じます。会議終了後にお気づきの点等がございましたら、令和6年3月5日(水)までに教育指導課へご連絡いただきますようお願いいたします。加えて、後日、会議録作成にあたり、それぞれ内容確認をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

小林委員

ありがとうございます。ご意見、ご質問等がございますか。特にないようでしたら、これで本日の懇話会を終了します。皆さま 1 年間大変お疲れ様でした。

以上